

1 日 時 令和8年2月5日(木) 10:00～11:30

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

鈴西小に来るとき、いつも鈴鹿山脈の身近さを感じる。鈴西小のよさは自然の豊かさと地域の協力。素晴らしい環境の中で、子供たちの教育ができることは幸せなこと。少し離れて、また来た時、そんな良さを感じる。地域にとって学校を大切にしていきたい。今日は本年度最後の学校運営協議会で、学校関係者評価が主な協議事項となるが、子どもや先生の頑張りを感じながら、進めていきたい。

4 学校長挨拶

本日は、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

1月の終わりは大変寒くなり、1月21日には雪が降り積もった。しかし、地域の皆様のご協力もあり、子どもたちは無事登校し通常の授業を進めることができた。ありがとうございました。

2月になり、学校は「ボランティア感謝の会」や「6年生を送る会」など、1年間の感謝の気持ちを伝える行事の準備が始まっている。こうした行事の準備が始まると、子どもたちは「卒業」や「自分たちの学年がもう少しで一つ上がる。」ことを実感し始めている。

さて、私たち大人も1年間の活動について振り返る時期がやってきた。本日は「学校関係者評価」について協議をいただく。子どもたち同様、私たち教職員も今年度の取組について反省し、来年度のより良い取り組みにつなげていかななくてはならない。たくさんご意見をいただき、よりよい鈴西小学校を作り上げる糧としていきたいと考えているので、本日は活発な意見交換をよろしくお願いしたい。

また、前回の学校運営協議会でも確認した門の件だが、西側の壁が撤去され見通しが大変よくなった。学校運営協議会をはじめたくさんの地域の皆様にお世話になり、学校の出入りが安全になった。御礼申し上げます。

もう一つ、ご報告したいことがあります。

「しいの実」の28号をご覧いただきたい。令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の通知があった。今年度は男女16種目中11種目が全国平均を上回っており、5種目が全国平均を大きく上回るという結果になった。ここには載っていないデータだが、鈴西小学校の子どもたちは全体的に運動が好きな子が多いことが分かった。また、毎日遠い距離を歩いて登校していることも効いているのではないかと感じている。もちろん裏面のように休み時間や体育科授業の取組について工夫している。

もちろん握力や上体起こしのように課題もある。課題解決についての手立ても打ちながら、さらに体力が向上していくよう取り組みを進めているので、ご支援ご協力の程よろしくお願いしたい。

5 協議事項

(1) 学校関係者評価書 [教頭が資料にそって説明]

《委員の皆様から》

- 些細なことでも相談しあえるような関係づくりをめざしてほしい。

- 孫を見ていると、不登校にならないかと心配になることもある。身近な問題であると思っている。
- 登校班のことで、低学年が、高学年に1・2学期は大事に見てもらっている印象がある。一方で、3学期になると、慣れてくるせいもあるのか、バラバラとまとまらずに登校してくることが多い。
- ボランティアの募集については、市民センター等に文書を置くだけでなく、回覧板で見てもらおうとより、効果的だと思う。
- あいさつについて、「しなければならない」ではなく、「当たり前」にするものという認識にしていきたい。
- いじめアンケートについて、アンケートに書けない子へも配慮をお願いしたい。→アンケートだけでなく、各担任は、子どもたちの普段の様子を観察している。子どもから困ったことを言えなくても、その姿や表情から汲み取って、声をかけるようにしている。

(2) 情報交換

- ・ 人権フォーラムについて
教頭が資料を基に児童・生徒の振り返り、地域の方のご意見を伝えた。

《委員の皆様から》

- 場の設定について、今回地域からの参加者の部屋割りが、昨年と違って自由だった。いろんな意見を聞いたが、部屋割りしてもらったほうが、話の流れもつかむことができる。
- 地域参加者が、感想を言う場面があればよかった。
- 中学生のリードの仕方に違いがあった。
- 声が小さいのは、発表に慣れていないのかな。
- 今の子どもたちは、私たちの頃より、よく話ができると思う。これは子ども主体の授業になっていることも一因だと思う。

《学校長より補足》

地域の皆さんの参加について、今年は見守っていただく形となった。子どもたちのより多くの発言時間を確保し、子どもたちの考えていることを地域の皆様にも知っていただくことを大切にしたいと考え、このような形にした。中には、地域の皆さんに囲まれているように感じてしまい、思ったように話すことができない子どもの姿もあった。はっきり話せるように学校でも指導を進めていきたいと考えているが、普段あまり発言することが得意でない子が「人権問題について話をしてみたい。」と一念発起して参加した例もある。

今後も温かい目で子どもたちを見守っていただくようよろしくお願いしたい。

(3) 令和8年度見込み児童数(2月5日現在)について

- ・ 表を基に教頭が説明。現段階ではあるが、今後、児童数は、減っていくものの、100名を下回ることはないことを伝えた。

6 連絡・その他

- 来年度の委員について
- 卒業証書授与式のご案内
- 卒業証書授与式の服装等について
- 会計監査(3月27日(金)10:00~)のお願い
- 来年度の学校運営協議会について(年間6回の予定)

7 教育委員会より(鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 加藤稔明先生)

- 学校運営協議会で話し合ったことが形になるというのはとても難しいこと。しかし、今回、校門横の壁を取り払って、子どもや、保護者地域の方、教職員の安全が確保できたのは、大きな成果と言える。
- 学校関係者評価では、たくさんのご意見を頂戴した。学校にとってありがたい

こと。学校は、これを生かしていかないといけない。学校運営協議会委員の入れ替わりがあるが、今年の実省を踏まえ、来年スタートできるといい。家庭学習のこと、図書のことなど、どうしていくとよいかという方向性を、来年度になってすぐ話し合えるようにしておくといい。

- 人権フォーラムについて、子どもたちの人権意識を高めたい、という思いで実施している。では、なぜ、中学校区で集まるのか。それは、中学生の意見、他校の多様な意見、そういったものに出会えるからである。彼らは、まず、自分の学校で話し合う。個人の意見もあるが、学校の意見をもって、代表として集まっている。中学生はより深い意見をもってきている。鈴峰中校区は、司会を中学生がしている。司会を務めることは、難しい。素晴らしいと思う。中学校で話し合ったことを、それぞれの小学校で還流する。そのようにして、子どもたちの人権意識を高めていく。

他の中学校区では、地域の方は参加していない。今後も見たい。意見も頂戴したい。参加された方に子どもたちの成長を見ていただきたい。運営する側も地域の方にそういった思いを伝えてほしい。

- 「話す」ということが話題に上がったが、話せる子、社会に通じる子をめざし、授業づくりや、どのように見守っていくのがよいのか引き続き話し合っていたきたい。